

涙が止まらない症状、 病気について

眼科 高橋 直巳



涙が多いという訴えは眼科診療で多く見られる症状です。原因として多いものは花粉やハウスダストによるアレルギー、異物混入、目の乾燥（ドライアイ）、炎症（結膜炎、眼瞼炎など）、涙道の疾患などが挙げられます。流涙症状は治療可能な状態も多くあり、症状改善または程度を改善することが可能です。気になる症状であれば眼科受診いただければ幸いです。

花粉やハウスダストによるアレルギー (アレルギー性結膜炎)

花粉やハウスダストなどにアレルギー反応が結膜に出て、涙が多くかゆみが持続することがあります。花粉症は季節性があり、ハウスダストは通年性で症状が出ます。治療は主に点眼による薬物治療です。花粉やハウスダストに接触しないように日常生活を工夫する必要があります。

目への異物混入

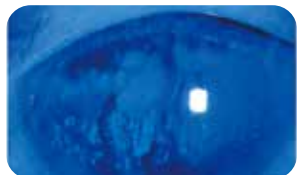
目に異物が入ると防御反応で涙が多くなり、ほとんどの場合涙で異物は出ていきますが、まぶたの裏の結膜や眼球表面の角膜に張り付いた状態になれば流涙症状が持続します。また、まぶたの形態の問題で逆まつ毛があり、眼球を刺激していても涙は多くなります。治療はいずれも異物を除去することです。逆まつ毛はまぶたの手術により完治することもあります。



逆まつ毛があり、
角膜に接触しています。

目の乾燥（ドライアイ）

冬の乾燥した風にさらされた時やスマートフォンやパソコンを長時間使用した時目は乾燥しますが、その刺激で涙の分泌が増え、涙が止まらなくなることがあります。重症化するとドライアイになりますが、涙の分泌量の減少、涙を保持する時間の低下が起こっています。治療は点眼薬で涙液の量的、涙の安定性が低下し早く蒸発質的改善を行います。



(ドライアイの涙液)
涙の安定性が低下し早く蒸発してしまいます。

炎症（結膜炎、眼瞼炎など）

主な原因は細菌やウイルスによる感染によるものです。いずれも充血や流涙症状を伴います。

黄色ブドウ球菌などの細菌性結膜炎は黄色い膿のような目やにが出ます。治療は抗生剤点眼を使用します。

ウイルス性結膜炎はまぶたが腫れ、耳の前にあるリンパ節が腫れることもあります。感染力が強いため、ほかの人に感染が広がらないように注意が必要です。ほとんどのウイルスについての特効薬はないため、ウイルスに対する抗体が体内で作られるのを待つしかありません。通常は炎症を抑え、細菌による二次感染を防止するための点眼薬を使用します。

まぶたの分泌腺に炎症が出てくると、眼瞼炎となります。抗生剤を使用しますが、点眼だけでなく、内服が必要になることもあります。目やにを除去しまぶたを清潔に保つことも重要です。



(ウイルス性結膜炎) 結膜充血を認めます。

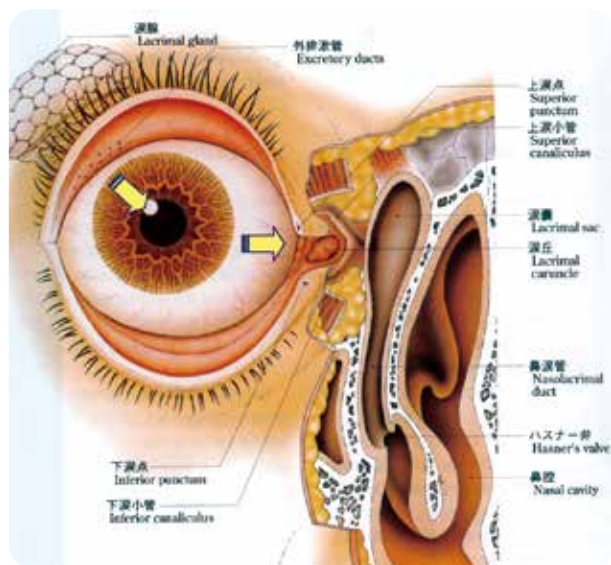
涙道の疾患

涙道は涙小管、涙嚢、鼻涙管の部位があり、涙を鼻腔に排出する器官です。涙道下部の鼻涙管が閉塞すれば涙が多くなり、微生物の感染が起きやすくなります。

感染が重症化すると涙小管炎や涙嚢炎を発症し、まぶたの腫れ、疼痛が出てきます。急性期の治療は抗生剤を使用しますが、点眼だけでなく内服または点滴を行います。

原因となっている鼻涙管閉塞については鼻涙管閉塞の手術を行います。涙道内視鏡併用涙管チューブ留置術、涙嚢鼻腔吻合術が適応になります。涙道内視鏡併用涙管チューブ留置術は、涙道閉塞を開放し、涙管チューブを留置することで、消炎まで再閉塞を予防し涙道を広げることができます。涙嚢鼻腔吻合術については、涙嚢は内側（鼻側）に骨を隔てて鼻腔と接していますが、骨を削り、涙嚢と鼻腔を吻合することでバイパスを作る手術です。鼻涙管の再建が難しい場合に適応となります。

例外として重症のドライアイがある症例では涙道の機能は重要ではないため、涙嚢摘出術を行う場合もあります。



(なみだの流れ) 目の表面を潤わせた後、涙道を通して鼻の奥に出ていきます。